～行政評価総評～

※全事業の評価後、評価者からいただいたコメントです。

○ 昨年と今年で２回行政評価を行ったが、今回は予算編成前の評価ということで、過去に実施した事業ではなく、将来を見据えた事業であり、想像力を持たないと評価できないので難しい評価であり、いい勉強をさせていただいた。

○新鮮な機会であった。共通して感じ、町職員にお願いしたいのは、プレゼンテーションのトレーニングをしてほしい。その重要性は増してきている。質問すると回答でわかることがあるが、相手に紙面で見せないと伝わらない。行政評価の事業で感じたことは、役場は縦割り行政だなと感じている。横の連携をいかにとれるか大事な時代であり、どのようにして人を巻き込み、政策を活かして事業を開発できるかが重要だと今日のやりとりで感じている。しかし、まだまだ縦割りであり、コスト意識や費用対効果を常に考えながら事業を行ってほしい。最後に行政は難しい時代に直面しており大変である。なぜかというと、何万人という町民を相手にし、一人一人意見は違うからである。また、声なき町民もいる。それを集約できるかというと難しい。国の運営を見ても行ったり来たりしている。そのようにならないためには町民に対する意識改革をして、町としての役割を考えるべきである。町民は行政がやってくれるという意識が強い。また、町民の意見を聞いてもまとまらない。そこで町民側への働きかけが重要である。どうしたらいいかは答えを持っていないが、問題意識として持ちながら町の行政にあたってほしい。

○コミュニケーション能力や説明能力が足りないと感じる。話を聞いていて私だったらこのように言えばもっと説得力が増すのになあと感じる。また、私から多少誘い水の質問を出しても返答がないことがあり、おしいなあと感じたことがあった。私たちも住民の代表者であり、外部の人間で参加している。私たちの後ろには数万の町民がいる。私たちに説明するテンションと住民へのテンションが変わってしまうのも困る。コミュニケーション能力は重要である。私は政策を専門に研究しているが、私の頭の論理構造は簡単で、ぜひ覚えていただければ幸いである。政策には必ず目的があり、それを解消する、実現するために手段としての政策がある。政策目的がない政策手段はない。必ず政策目的があり、必ず目的を実現するための手段として、これをつくりたい、これを買いたいという話になる。そこで逆転の思考をしている。これをやりたいからこれをしたいというプレゼンテーションをして、これをやったら目的は達成する

のかを考えている。目的から手段に対する論理と、手段から目的を逆算したときの論理がまっすぐに成立するなら合理性ありと判断する。たとえば、公園や駐車場整備の事業は、今回プレゼンテーションすることをやれば本当に公園は安全になるのか、2 人の職員をあてれば駐車場の利用はさらに安全安心になるかを常に考えている。そうはならないとなると、なぜかを考える。ここの論理が薄く、破綻、飛躍している場合、そこを質問している。目的から手段を考案したと同時に、手段から目的を逆算してほしい。議員も同じで行政からの提案に対し、手段をとれば目的が達成するのかを質問すれば、それに対して責任が発生する。住民もその視点により、これを作ったら安全安心になるかを詰め寄るべきである。これが合理的な議論のしかたである。アメリカでは常にディベーティングしており、高校時代からできている。しかし、日本は拝み倒すスタイルがあり、非科学的に伝統や先例に縛られ、縦割りで横は何をやっているかわからないという中世の行政スタイルである。実は江戸時代の行政組織と今とでは変わっていない。21 世紀に今回の震災のリスクマネージメントを考えるとき、住民への説明はどうすればよいのかというコミュニケーションをするとき、説得性のあるプレゼンテーションが必要である。今後もこのように考えて住民のために奉仕をしてほしい。